福島第一原子力発電所で働くみなさんへのお知らせ

月刊 いちえふ。

2016年
7月号

1 FOR ALL JAPAN　事務局

とぴっくす

暑さ指数(WBGT)を意識しましょう

同じ気温でも、湿度が高いと熱中症になりやすくなります。気温だけでなく、暑さ指数（WBGT）も意識しながら、こまめな水分補給や休息を大切にしましょう。

『福島第一原発廃炉図鑑』で1 FOR ALL JAPANが紹介されています

6/7発売『福島第一原発廃炉図鑑』（開沼博編）のP163に、本サイトが紹介されています。ぜひご一読ください！

「量より質の食事」で夏バテを予防しましょう

暑い季節は、豚や玄米に含まれる良質なたんぱく質、高エネルギー、高ビタミンなど、栄養価の高い食品を多く取り入れることで、夏バテを未然に防ぎましょう。

所長対談

安全確保はもちろん、やりがいのある職場づくりにも注力します

小野 明
前発電所長
2013年6月から
2016年6月まで

内田 俊志
現発電所長
2016年7月から

震災が発生してから5年。その間、3名の方が1Fの所長職を全うしてきました。そしてこの7月、1Fの所長が代わります。2013年6月から所長として尽力されてきた小野明さんから、内田俊志さんにバトンタッチされます。今回は、そんなお二人に1Fで働く作業員の方々への思い、1Fの未来について語り合ってもらいました。

―― 1Fでの仕事で注力したことなどを教えてください。

小野さん：当然ながら、最も優先すべきは安全確保です。その一方で、汚染水処理という課題もありました。具体的な成果としては4号機の燃料をすべて取り出したことや2015年5月にはタンクにたまった汚染水の全量処理が完了しました。

また、住環境の整備に注力したほか、作業現場でのシャワーの利用開始や大型休憩所の設置など、現場の環境改善に取り組みました。

作業員の方々と家族のみなさんに、改めて感謝の気持ちを伝えたい

ここまでたどり着いたのは、作業員一人ひとりの努力の結果です

るでしょう。自分のこれまでの経験を生かすとともに、所員や協力企業の方々など1Fで働くみなさんの話を聞きながら、課題を乗り越えていきたい。そして、安全な環境づくりはもちろんですが、やりがいのある職場づくりにも注力したいと考えています。

―― 現場を支える方々へメッセージをお願いします。

小野さん：事故後5年以上が経過し、ここまで1Fは安定化しました。作業員の方々のがんばりによるものだと思いますし、所長としてただただ感謝しています。同時に、その仕事を支えているご家族のみなさんに対しても、改めて感謝の気持ちをお伝えしたいですね。

内田さん：たった5年間で、ここまでたどり着くことができたことに驚かされます。1Fで働く一人ひとりの大変な努力の結果であり、本当に頭が下がる思いです。1Fでは約7000人が働いています。1Fで働く全てのみなさんが一体となることが大事。全員で協力しながら課題を克服し、前進しましょう。

―― 今後の作業ではどのようなことが必要ですか。

小野さん：例えば、事故後に取り付けたケーブルなど、仮設に近い設備がかなりあります。必要なものについては、これを本設化すべきでしょう。また、ハードだけでなく、業務の進め方、物事の決め方などソフトの面でも基盤を整えていく必要があります。

内田さん：今後、いろいろ難しい課題に直面することがあ

●続きはウェブサイト「1 FOR ALL JAPAN」でお読みください
URL：http://1f-all.jp/interview/s01/

1Fを守る仲間たち 12

気持ちよく仕事を進めるには しっかり準備をすることが大切

池永 信之さん
東芝プラントシステム株式会社
原子力フィールド試験技術部 試運転グループ 主任

1Fでは安全な廃炉作業に向け、大きな設備から小さな機器まで、さまざまな設備が使われています。そうした設備を新しく据え付けるときに、必要なのが機器のチェックや性能の確認であり、「試運転」の仕事です。今回は、1Fで水質管理設備を中心として、試運転にたずさわっている東芝プラントシステムの池永信之さんにお話をうかがいました。

―― 仕事の内容をわかりやすく教えていただけますか。

池永さん：新車納入に例えてみるとわかりやすいと思います。車が納品されると、ワイパーが動くか、ブレーキがきちんと動作するか、ランプが点灯するかというように、まずそれぞれの動作を確認します。次に、実際に走らせてみて

1993年入社以来、原子力発電所設備の試運転一筋。女川原子力発電所2号機建設プラントをはじめ、浜岡、柏崎刈羽5、6号機、東通など、日本各地の原子力発電所で経験を積んできた。連休に自宅に帰って娘さんと会うのが楽しみ

性能を確認し、必要があれば細かい部分を調整し、お客様に引き渡します。これと同じように、設備や機器を据え付け、お客様に引き渡す前にその設備の性能を確認するというのが試運転という仕事なのです。

無事引き渡すことができて うまく運転してもらえるのが喜び

―― どういうときに仕事をしていてよかったと感じますか。

池永さん：グループで前向きに仕事ができ、要求する機能をすべて満たして、無事引き渡せたときですね。そして、引き渡した後で、うまく運転できているというのが、私たちにとって一番の喜びです。

1F全体の中で、試運転をする一つひとつの設備は小さい存在かもしれませんが、それが集まって汚染水の浄化、さらには1Fの安定化と廃止措置という大きな仕事につながっている――そう考えると、自分たちの仕事が世の中に役立っていると思うことができ、やりがいを感じます。

●続きはウェブサイト「1 FOR ALL JAPAN」でお読みください
URL：http://1f-all.jp/interview/12/

池永さんのお勤め先

東芝プラントシステム株式会社

2004年に東芝プラント建設と東芝エンジニアリングが合併して現社名となる。電力システムや原子力システムなどの発電設備の設計、施工、試験調整・試運転のほか、各種産業生産設備、ビル、上下水道、情報通信、空港、道路、鉄道などのインフラや環境に関わる設備の設計、施工、フィールドサービスなどを主に行っている。

いちえふのいま

燃料取り出しに向け、調査や作業を1～3号機で進めています

1号機では、建屋の南東側にカメラを入れて、使用済燃料プール周辺の調査を実施しました。2号機では、溶け落ちた燃料の位置を調べるために、宇宙から地球にふりそそぐミュオンという素粒子を使った測定を進めています。3号機では、燃料取り出し用カバーの設置に向け、原子炉建屋最上階の床に遮へい体（放射線を通さない壁）を作っています。

Ⓐ 陸側遮水壁の状況

凍結範囲の約9割の地中温度が0度以下を確認。遮水壁内外の地下水位の差を徐々に確認。必要な箇所には対策を講じる。

Ⓑ 1号機

●建屋内部にカメラを入れて調査

建屋のガレキを取り除く手順を決めるために、崩れた屋根下の南側と南東側にカメラを入れて現在の様子を調べた。5月30日から崩れた屋根上のガレキの吸引を開始。

Ⓒ 2号機

●溶け落ちた燃料の様子を調査

宇宙からふりそそぐミュオン粒子を用いて測定し、原子炉建屋内の燃料や原子炉格納容器などの位置を調査中。順調にデータが得られており、7月まで測定を続ける予定。

Ⓓ 3号機

●原子炉建屋への遮へい体設置の効果

原子炉上部を覆う床に遮へい体を設置したことで、床面の線量が323mSv/hから3mSv/hに低減。数百m離れた地上の線量も、約10%低下。

●高所除染装置の実機による検証

原子炉建屋内の高い場所を除染するために、高所除染装置（ドライアイスブラスト装置）の実機による検証を行い、吸引との組み合わせで目標値を達成。

コラム

1Fの安全統一ルール22カ条
【第4回】

昨年、過去の災害事例をもとに1F内で守るべき規定として、「1F安全統一ルール22カ条」を作り、運用を始めました。このコーナーでは、2カ条ずつ内容を紹介しています。

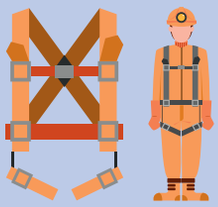
●第7条「現場では全員が安全帯を装着」

安全帯とは、高所作業で作業者が落下したときに生命を守るための命綱付きベルトです。現場では全員に安全帯の装着をお願いしています（作業条件によっては主管Gや元請の協議による判断）。高所作業時（移動時含む）は、二丁掛けをするなど、安全帯を外さずに作業するようにしてください。

●第8条「フルハーネス型安全帯の使用」

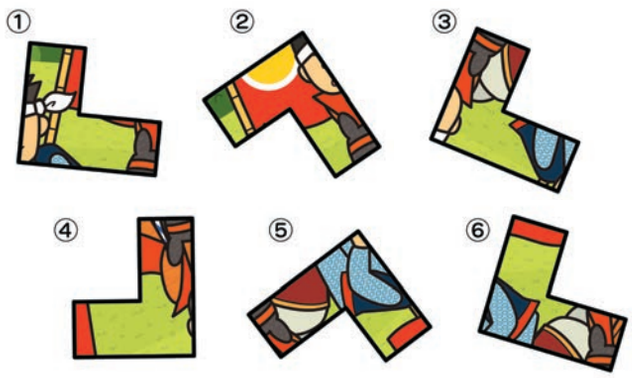
タンクでの高所作業、鉄骨の組立解体作業、足場組立解体作業などは、落下の可能性が高い作業です。もしもの場合に体にかかる衝撃を腰部以外の腿部や胸部などの多くの箇所に逃すことができるのがフルハーネス型安全帯です（作業条件に応じて主管G、元請の協議により判断）。

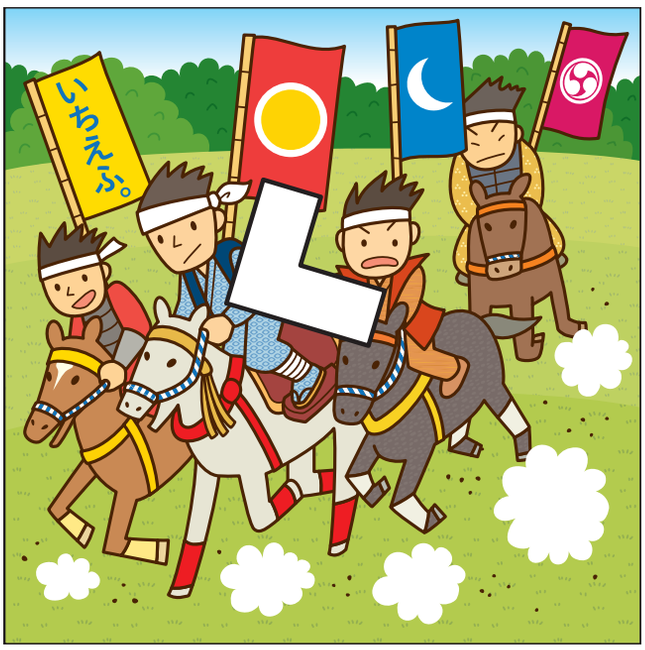
高所作業ではフルハーネス型安全帯を装着するようにしてください。



いこいの時間　〈ジグソーパズル〉

今月はジグソーパズルです。絵に載っているのは、福島県相馬市で行われる伝統の祭り「相馬野馬追」。中央の一部分に空いているところがありますが、当てはまるピースはどれかおわかりになりますか？





応募方法・プレゼントのお受け取り方法

正解した方の中から抽選で3名様にプレゼントをさしあげます。

入退域管理棟、新事務棟お客さま通用口にある応募箱に必要事項をご記入のうえ、ご応募ください。

応募箱設置期間　7月8日～7月22日

＊応募用紙は応募箱横に設置しています。
＊当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。

今号のプレゼント

とぴっくすでも紹介された『福島第一原発廃炉図鑑』（開沼博編 太田出版）です。

ウェブサイトの紹介

福島第一原子力発電所の廃炉事業を進める作業員のみなさんに、働く仲間や応援者のメッセージを伝えるため2015年10月に開設した「1 FOR ALL JAPAN」です。ウェブサイトでも本誌でも、作業員のみなさまを応援していきます。

1 FOR ALL JAPAN
廃炉のいま、あした

http://1f-all.jp/

月刊いちえふ。
2016年7月号
【発行日】2016年7月10日
【発行】
1 FOR ALL JAPAN　事務局
（東京電力ホールディングス　SC室）
【お問い合わせメールアドレス】
info@1f-all.jp